カトリック教報

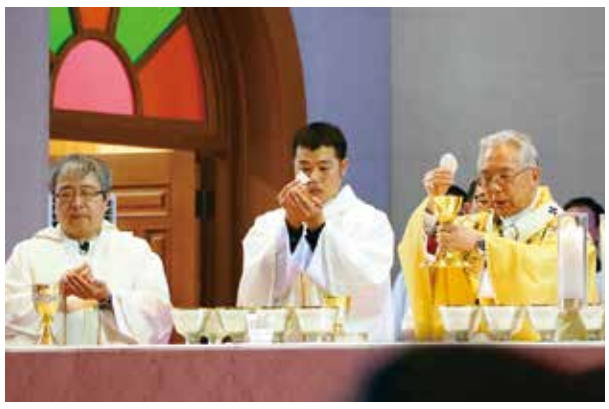
カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

・宣教　アフリカの教会が、一致のためのからし種、大陸の希望のしるしとなれるように
・日本　子どもたちの心と体の健全な成長のために惜しみなく愛情が注がれるように

浦上教会で司祭助祭叙階式

祭司らには、救いを衣としてまとわせる。わたしの慈しみに生きる人は喜びの叫びを高くあげるであろう。（詩編132・16）



3月21日（木）10時30分から浦上教会で、高見三明大司教主司式、80人以上の司祭団による共同司式、多くの修道者・信徒らの参列のもと、司祭・助祭叙階式が執り行われた。

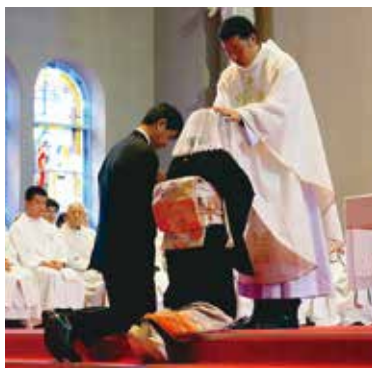
叙階されたのは桐教会出身のドミニコ宮原大地新司祭、浦上教会出身のヨセフ青田憲司新助祭と八幡町教会出身のシモン稲田祐馬新助祭。叙階式ミサに先立ち、桐教会の川原拓也主任司祭が教話を務めた。二度目の叙階式教話を担当することになった川原師は「たとえ三度目があっても喜んで引き受けましょう」と覚悟を示した上で、「私たちには司祭の誕生を喜ぶ遺伝子がある。今日我々が味わう叙階式の喜びは、七代にわたって司祭を待ち望んでいた先祖たちがようやく司祭と出会えたあの時の喜びと同じものである」と述べ、信徒の祈りと望みとが司祭を誕生させる源泉であることを説いた。

叙階の儀は福音朗読の後に行われた。司教による叙階の祈りと按手をもって叙階された新司祭と二人の新助祭たちは、司教との抱擁のあと、司祭団に向かって「主の平和」とあいさつし、続けて参列者全員に「主の平和」とあいさつを行うと、聖堂内は大きな喜びの拍手に包まれた。

式の終わりに高見大司教は、受階者の家族や神学院の養成者たちに感謝の言葉を述べながら、「新たな召命のために単に祈るだけでなく、積極的に子どもたち・若者たちに声かけを行ってほしい」と参列者に呼びかけた。

この日は、宮原新司祭が助祭時代に実習で通っていた松戸教会（東京教区・千葉）からも、主任司祭と信徒たちが駆けつけ、共に祈りをささげた。そのうちの一人は「司祭の誕生は教区を超えた喜びです」と語ると同時に「来年からはこのような交流の機会がなくなり寂しくなる」とも語っていた。

今回叙階された二人の新助祭は、福岡カトリック神学院で1年間養成される予定になっている。



両親を祝福する宮原大地新司祭

また、3月17日（日）14時からは浦上教会で選任式が行われた。ステファノ ナム・シジン神学生（テグ教区・サンモ）とパドアのアントニオ西田祐尚（まさなり）神学生（飽の浦）が祭壇奉仕者に、ヨセフ鼈甲（べっこう）屋賢治神学生（宝亀小教区・中野）が朗読奉仕者にそれぞれ選任された。

38年ぶりの教皇訪日に向けて

長崎実行委員会 発足

聖ヨハネ・パウロ2世教皇様が、日本そして長崎を訪れてくださってからはや38年が経つ。横殴りの雪が舞う松山競技場でのパパ様司式のミサを記憶に留めている方々も多いと思う。初めてパパ様と会う感動は何物にも代え難く、その後の人生の歩みに大きな支えとなったことだろう。

さて、今年、神様からの素晴らしいお恵みを頂けそうである。フランシスコ教皇様が今秋中に日本を訪れてくださるというニュースが飛び込んできた。日程などの公式発表はまだだが、訪日は確実視されている。

そこで、長崎にもお出でくださるだろうということで準備に取り掛かることとなった。少なくとも前回同様、教皇様司式の荘厳ミサを行ってくださると予想し、教区顧問会の承認を受けて教皇訪日長崎実行委員会をこの3月31日に立ち上げた。

実行委員会は、教区が一体となって喜んでお迎えするために、教区評議会、各地区評議会、各委員会、修道女連盟などの代表者三十数名によって構成し、協議、連絡、調整など、密に情報交換できるように考えている。参加者の規模を予想すると相当数のボランティアが必要であり、各会をはじめ、各地区、各教会の協力がなければ歓迎できないと思っている。

教皇様の訪日を機に、日本の教会、長崎の教会が励まされ、新しい熱意、方法、表現をもって福音を伝える者に変えられるように総出でお迎えしたいと願っている。

教皇訪日長崎実行委員会
委員長　中村満

キリストの弟子となる

「福岡カトリック神学院」開校

4月1日（月）に福岡カトリック神学院（福岡市城南区）で、開校ミサと祝賀会が行われた。主司式は高見三明大司教、共同司式はチェノットゥ駐日教皇大使をはじめ参事官や長崎教会管区の4名の司教、サン・スルピス司祭会カナダ管区長のほか、およそ40名の司祭団で執り行われ、お迎えした80名ほどの支援者と共に、盛大に祝われた。ミサの冒頭では、スルピス会員の湯浅俊治神父によって「福音宣教省による福岡カトリック神学院設立許可書」が奉読された。説教は鹿児島教区の中野裕明司教が担当され、キリストの弟子となるということをテーマに、同神学院が設立されるに至った経緯が説明された。

現在、同神学院に在籍する神学生は17名、うち9名が長崎教区の神学生である。助祭コースに青田（浦上）、稲田（八幡町）、神学科3年に鼈甲屋（宝亀）、ナム（韓国テグ）、西田（飽の浦）、哲学科2年にホン（大浦）、哲学科1年に廣田（鹿子前）、池田（植松）、窄口（城山）が在籍している。司祭召命が少ないと嘆く声が聞こえてきそうだが、キリストの弟子として神の民に仕えるために志を持つ神学生たちがここに確かにいる。引き続きご支援をよろしくお願いします。

（助祭・稲田祐馬）

人事異動・任命

（　）内は前任地

▼教区
（5月5日異動　(1)は2019年4月6日　(2)は4月14日）

村中　司師　引退
橋本　勲師　黒崎主任（中町主任／南地区長）
小瀬良　明師　青砂ヶ浦主任（浦頭主任）
山内　実師　相浦主任／佐世保地区長（真手ノ浦主任）
岩崎　康彦師　佐々主任（青砂ヶ浦主任）
福島　光明師　植松主任（山田主任）
眞浦　健吾師　丸尾主任兼務　青方主任／上五島地区長
中濱　敬司師　教区本部事務局長　信仰養成部長／家庭委員長兼務
紙﨑　新一師　浅子主任（植松主任）
平本　義和師　長与主任（天神主任）
葛嶋　秀信師　中町主任／南地区長（黒崎主任）
山本　一郎師　木鉢主任（丸尾主任）
中島　誠志師　天神主任（丸尾主任）
（日本カトリック神学院東京キャンパス）
一ノ瀬輝幸師　早岐主任（福岡・水俣主任）
工藤　秀晃師　浦頭主任（木鉢主任）
野濱　達也師　真手ノ浦主任（早岐主任）
岩下　裕志師　山田主任（浅子主任）
山内　啓輔師　ローマ留学(1)（福江助任）
下原　和希師　福江助任（浦上助任）
宮原　大地師　浦上助任(2)（新司祭）
下窄　英知師　カトリックセンター付（教区本部事務局長）
前田　達也師　病気治療

▼派遣司祭（5月5日異動）
嘉松　宏樹師　福岡カトリック神学院養成者（佐々主任）
▼コンベンツアル聖フランシスコ修道会（4月1日付）
園田　善昭師　大阪・仁川修道院付（真命山協力者／聖母の騎士修道院）
▼レデンプトール会（4月22日付）
瀬戸　高志師　愛宕主任（東京・本部）
井田　明師　大阪・吹田主任（愛宕主任）
三輪　周平師　横浜・富士見主任（愛宕助任）
▼神言修道会（4月1日付　(3)は2月14日付）
川上　栄光師　西町教会(3)（日本管区センター）
荒田　啓示師　聖ルドヴィコ神学院指導司祭（新司祭）
アルフォンスス・アフリ・ディエゲル師　ローマ留学（聖ルドヴィコ神学院指導司祭）
▼オプス・デイ（4月3日付）
尾崎　明夫師　京都（長崎）

エドワルド 村中 司師が引退

57年間にわたり司牧に専念されたエドワルド村中 司師が、今年5月5日付で引退される。これまでの奉仕に感謝を表し、これからの健康を祈りたい。

略歴　1936年4月16日五島市生まれ。三井楽教会出身。62年3月19日大浦天主堂で司祭叙階。同年4月三浦町、63年紐差、66年中町、68年出津、69年4月青砂ヶ浦で助任を務め、同年9月からは曽根、78年水ノ浦、88年相浦、96年宝亀、99年三浦町で主任を務めた。2007年から今年まで長与小教区主任。

ほしかげ

325年のニケア公会議に対する反応は、当時の正統教会の中にあっても大きく二つに分かれていた。一つはニケア信条のいかなる文言も吟味する必要なしとするいわゆるニケア原理主義と呼ばれるグループ、もう一つはニケア信条において意味が不明瞭なまま挿入されたὁμοούσιον（ホモウシオン）（同一本性）という語を徹底的に検証すべきであるとするいわゆる新ニケア主義と呼ばれるグループである▼後者のカテゴリーにカッパドキアの教父たちは属するのであるが、彼らはニケア信条に欠けていたオリゲネス神学の伝統を駆使して、見事に三位一体理解を深化させ、ὁμοούσιον（ホモウシオン）という語に正当な解釈を施し、381年のコンスタンティノープル公会議を主導する。こうして教会の伝統の豊かさが保たれたのである▼ところで第二バチカン公会議から50年余りが経過した今なお、「公会議後＝新しい教会」、「公会議前＝古い教会」という単純な構図がまかり通ることに戸惑いを覚える。もし第二バチカン公会議がその本来の意図に反して「古い」とか「新しい」とかいった分裂をもたらす基準となっているのであれば、そのような基準自体がもはや古いものとして乗り越えられなければならない、そんな新しい時代が来ているのではないかと考える。公会議は一つの到達点だったとしても終着点ではなく、教会は常に刷新されなければならないのだ。"ecclesia semper renovanda"（通）

「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」　教皇フランシスコ

宣教のための特別月間を過ごす⑤

東アジア諸国に「信教の自由」を

～津和野の証し人の列聖調査開始の経過報告～

広島教区司教　アレキシオ　白浜　満

「福音宣教のための特別月間」

教皇フランシスコは、今年10月を「福音宣教のための特別月間」に制定され、「諸国民への宣教」のために新たな推進力となることを願っておられます。この特別月間は、ちょうど百年前の第一次世界大戦後に、当時の教皇ベネディクト15世が「諸国民への宣教」を促した使徒的書簡『マキシムム・イルド』の公布を記念するものです。この使徒的書簡の重要な意義について、教皇フランシスコは、次のように述べています。

「悲劇的な世界大戦後の1919年、教皇は世界における宣教活動から植民地主義的な要素を消し去り、破壊をもたらす国家主義や拡張政策主義を退けるため、全世界の宣教活動をさらに福音に即したものとする必要があることを認識しました。教皇は『神の教会は普遍的です。教会はどの民とも対立しません』と記し、あらゆる種類の利害関係を拒むよう強く求めました。聖なる生活と善行を通して、主イエスがより広く告知され、イエスの愛が広まることこそが、宣教活動の目的です。このようにベネディクト15世は、当時の概念と言葉づかいを用いて、『諸国民への宣教』をとりわけ強調し」[i]ました。

明治時代の国家主義

教皇ベネディクト15世が退けようとした「（破壊をもたらす）国家主義」に類似した事例が、日本の明治初期にも見られたと言えます。江戸幕府の末期（1865年3月17日）、長崎の大浦天主堂で働くパリ外国宣教会のプティジャン神父のもとを訪れた浦上キリシタンたちが、同じ信仰をもつ信者であることを告白し、「信徒発見」の奇跡が起こります。その後、浦上キリシタンたちは、自分たちの信仰を明らかにしていきました。そして、2年後には、「浦上四番崩れ」と呼ばれるキリシタン迫害が勃発します。1868年に樹立された明治政府は、天皇を中心とする国家神道を精神的な背景にして近代国家の形成を進め、江戸幕府から続いてきたキリシタン禁制を維持し、浦上の約3300名の信徒たちを捕らえて、西日本20藩・22カ所に流配し（1868年～1870年）、神道への改宗を強要したのです。明治政府の成立早々、神祇行政の先頭に立った津和野藩にも、125名が移送され、流配中に37名が信仰のゆえに苦難を受けて命をささげました。

当時の社会に与えた影響

日本の明治政府によるキリシタンへの拷問の様子は、諸外国からの非難の的となり、明治政府は、外交官を通して繰り返し抗議を受けています。そのため1873年（明治6年）には、キリシタン禁制の高札を撤去し、流配されていた浦上の信徒たちを、5年ぶりに帰郷させました。その後、1889年（明治22年）に「大日本帝国憲法」が公布されたときには、まだ条件付きではあったものの、「信教の自由」が認められました。明治初期の信徒たちの苦難と証しが、「一粒の種」のような隠れた力となって、当時の日本の社会に「人間の尊厳と信教の自由」をもたらす影響力になったのです。その後も、近代日本のカトリック教会は、とくに教育や福祉の分野の活動を通して、日本の社会に「人間の尊厳と信教の自由」の尊さを訴え続けてきました。

流配者たちの象徴として

信教の自由のために苦難を受けたこれらの証し人たちを、カトリック教会において公的に記念することができるように、前任者の前田万葉司教（現大阪大司教区・枢機卿）は、教区創立90周年を迎えた2013年5月3日の「乙女峠まつり」において、広島教区の段階で津和野の37名の証し人の列聖運動を開始する意向を表明され、広島教区列聖委員会を設立しました。その後、間もなく前田司教（当時）が大阪大司教区へ転任されたため、列聖運動は足踏み状態でした。2016年9月19日に、わたしが後任になって一年半後、浦上四番崩れによる流配開始150年という節目（2018年）の「乙女峠まつり」の前日、広島教区列聖委員会は、長崎大司教区および流配先の各教区（名古屋、京都、大阪、高松、鹿児島、広島）の関係者の方々を招いて、初めて「浦上四番崩れ流配地連絡会」を開催しました。この連絡会の中で、先に、各教区から流配に関する報告をお願いし、情報交換を行いました。その後、広島教区列聖委員会は、浦上四番崩れによる流配者の代表（象徴）として、一足先に、津和野・乙女峠でいのちをささげた37名の列聖調査開始の手続きに入りたい旨を説明し、参加者から賛同を得ることができました。

司教協議会の同意と教皇庁列聖省への申請

その後、7月中旬に開催された司教協議会の臨時司教総会中（7月10日）、浦上四番崩れによって明治初期に津和野へ流配され、いのちをささげた37名の列聖調査を、広島司教区が正式に開始する許可願いを教皇庁列聖省に申請することについて審議をお願いし、司教団からも了解をいただきました。そして、その翌週、わたしは、広島教区列聖委員会のメンバーで専門的な手続きを担当しているイエズス会の平林冬樹神父と共にローマへ赴き、7月18日に列聖省の長官アマート枢機卿に面会し、津和野の証し人37名の列聖調査開始の許可を願う申請書を、直接手渡しました。その際に、アマート枢機卿から、今後の列聖調査に関するマニュアルとともに、幾つかの貴重な助言を賜りました。この調査は、列福、そして、列聖という二つの段階に分けられています。

教皇庁列聖省から広島の巡礼団への報告

広島司教区では、昨年10月にローマとファティマへの巡礼が企画されました。この巡礼の際（10月9日）、巡礼団一行42名と共に再び列聖省を訪問し、7月18日に提出していた申請書に関する中間報告を受けました。面会してくださった列聖省の次官バルトリッチ大司教は、次のように述べられました。「7月にアマート枢機卿を通して、津和野の証し人の列聖調査開始許可を願う申請書を受け取りました。列聖省は、問題点がないかどうかを調べるため、最初の時点で関係省庁に問い合わせをします。可能性が低い場合には受理しません。福音宣教省とバチカン資料室からは、すでに問題なしという返事が来ています。後は、教理省からの返事待ちの状態ですが、神学的問題はないので通る可能性は高いと思います。その返事が来たら、すぐに手紙を書きます。その後は、あなたたちの方が忙しくなります。37名の証し人の正式な調査をしなければなりません。歴史的資料が残されているかどうかが重要な鍵になります。本当に彼らの死は信仰に基づく死なのか、病気でなく迫害という暴力によるものなのか、彼らにゆるしの態度が見られたのか、現在、彼らはどのように敬慕されているかを調査して、必要書類を整えてください。」

列聖調査開始の許可

その後、年が明けて、ようやく2月4日に教皇庁列聖省の事務担当の方からのメールで「教理省からも、津和野の証し人37名の列聖調査開始について問題なしという返事がありましたので、列聖省は正式に許可することになります。許可書は後日送りますので、手続きを先へ進めてください」という嬉しい知らせがありました。その数日後には、列聖省から調査開始の許可書が届き、その日付が2月5日（日本二十六聖人殉教者の祝日）でしたので、喜びはひとしおでした。今年の「乙女峠まつり」の中で、前田万葉枢機卿（現大阪大司教区）司式による「津和野の証し人列聖調査開始宣言ミサ」を行う予定です。同時に列聖調査の正式開始の公示、調査に関連する資料提供の依頼、第一段階（列福）について賛成・反対意見の公募、調査のための寄付金の依頼等などを行っていきます。必要とされている調査や文書作成のため、早くても2年～3年はかかる見込みです。2023年は流配先からの帰還の年、同時にキリシタン禁令の解除から150周年という節目の年に当たります。この年に列福式を実現させることは時間的に困難ですが、一つの目標に位置づけて、準備を進めていきたいと思います。

東アジア諸国に「信教の自由」を

浦上四番崩れによって流配された方々の象徴（代表）として、津和野の証し人の列聖調査開始に踏み切るのは、近隣の東アジアの諸国に、「信教の自由」の理念を広げる祈りの力になりたいという切なる願いによるものです。第一段階の列福後には、教会の典礼における公的な崇敬も可能となり、彼らの取り次ぎを願うことができます。一日でも早く、信教の自由という福音の喜びがもたらされることを願って、津和野の証し人の列福・列聖の運動を続けていきたいと思います。皆様のさらなるお祈りとご支援を、よろしくお願いします。

i「世界における宣教活動に関する使徒的書簡『マキシムム・イルド』発布100周年に向けた教皇フランシスコの書簡」（2017年10月22日）。

教区顧問会 開かれる

審議事項さまざま

教区顧問会が3月20日（水）、大司教館で開催された。主な審議事項は次の通り。

膨大なページ量に及ぶ過去の『カトリック教報』紙を電子データ化する作業を数年にわたって行うこととなった。創刊時（1928年）以降の紙面の経年劣化が著しく、貴重な教区の資料を保存・管理するためである。

教区経済問題評議会で3月8日に審議された2019年度収支予算書案が承認された。通常予算に加えて、教皇来崎に向けての特別行事の予算も盛り込まれた。加えて、教皇訪日長崎実行委員会の立ち上げが承認され、3月31日の教区評議会定例会で発足する運びとなった。各委員の委嘱は5月3日の教区評議会総会時に行われる。

聖フランシスコ病院の長崎教区移管、ならびに大浦天主堂キリシタン博物館設置における公益事業の条項を追加するにあたり、長崎大司教区規則の一部変更が承認された。

出津・大野教会、江上教会の教会守の費用を19年度から教区が捻出することになり、NPO法人世界遺産長崎チャーチトラストと契約を結び、教会守の業務を委託することとなった。

クリスマス募金支援報告

教区評議会

昨年12月1日から今年1月15日にかけて「クリスマス愛の募金」の協力を呼び掛けた教区評議会は、1月21日までに集まった446万7998円を、前年度の繰越金46万2047円と合わせて被災地支援などのため、次の活動団体に送金した。

▼長崎ホームレスを支援する会 50万円▼長崎ダルク 50万円▼福岡美野島司牧センター 50万円▼東京山友会 50万円▼大阪旅路の里（釜ヶ崎）50万円▼ドリームカムホーム青少年自立援助 50万円▼生活困窮者への支援として教区福音化推進部へ 20万円▼佐世保隣人愛の会 10万円▼声の奉仕会・マリア文庫 10万円▼長崎カトリック聴覚障害者の会（長崎と佐世保）各10万円▼聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 10万円▼モナの会 10万円▼入管収容者への支援 10万円▼一粒の麦の会 10万円▼社会福祉法人一粒の麦の会「カリタス佐世保」10万円▼北関東医療相談会 10万円▼コンゴ平和学園 50万円。

また、1月21日以降に寄せられた募金は、次年度に繰り越すことになっている。3月31日までの2018年度募金総額は、518万2444円。

短信

〈滑石教会ニュースが500号〉

毎月発行の滑石教会ニュース『めぐみ』がこの3月で500号となった。

〈聖香油ミサ〉

4月16日（火）浦上教会で聖香油ミサが行われた。本来このミサは祭司職の制定が記念される聖木曜日に行われるが、この日に教役者と信者が司教と共に集まることが困難な場合には復活祭に近い他の日を選ぶことができ、長崎教区では火曜日に行われている。ミサの終わりには、今年司祭叙階の節目を迎えた司祭と新司祭のお祝い式があった。

ぶどう園

▼一日の祈りの集い　5月11日㈯城山、6月27日㈭佐々。9時15分～16時。参加費500円。聖書、筆記用具、昼食を持参。みつあみの会主催。各教会に配布の案内を確認の上、2週間前までに申込み（定員15人）。

▼井持浦ルルド祭　5月12日㈰13時、井持浦教会。

▼雲仙殉教祭　5月19日㈰、雲仙メモリアルホール。13時開会、13時30分ミサ、15時巡礼。

▼グレゴリオ聖歌に親しむひとときをご一緒に　5月19日㈰15時、西坂・聖フィリッポ教会。出演・カトリック長府教会聖歌隊。入場無料。

▼教区結婚講座　毎週水曜日（6月5、19、26日、7月3、10日）の計5回。19時～20時45分。カトリックセンター。受講費1人5千円。問合先・教区家庭委員会 TEL 095-842-4450

▼講演会・第6回「共に生きる学び」　6月9日㈰13時30分、カトリックセンター。講師・Sr.石岡ヒロ子（聖フランシスコ病院修道女会）。教区家庭委員会南地区主催。

▼教区司祭黙想会　6月11日㈫～14日㈮、大司教館。

▼公開聖書講座「ルカによる福音書」　6月16日㈰13時～16時、カトリックセンター。講師・湯浅俊治師（福岡カトリック神学院養成者）。参加費500円。申込先・教区生涯養成委員会 FAX 095-841-7732

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院

●日数谷 初夫様（神崎）

故マリア日数谷ミツ様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎大司教区現勢統計表 （2018/12/31 現在）

地域	長崎県	小教区	72		信徒数	司祭・他	総数
面積	4,131 ㎢	準小教区	1	2016年	60,989 人	910 人	61,899 人
県人口	1,337,662 人	巡回教会	58	2017年	60,362 人	880 人	61,242 人
カトリック	60,933 人	集会所	2	2018年	60,070 人	863 人	60,933 人

小教区	信徒数			世帯数	洗礼		ミサ参加者			結婚				死亡
	男	女	合計		幼児	成人	主日	復活	降誕	信徒同士	混宗婚 (1)	異宗婚 (2)	他宗同士	
浦上	2,868	3,647	6,515	1,369	26	17	2,000	3,000	3,000	5	0	25	3	65
稲佐	368	430	798	271	2	1	160	200	250	1	0	2	0	16
城山	1,212	1,489	2,701	734	13	10	850	900	1,200	0	0	5	0	34
西町	1,036	1,258	2,294	772	14	4	450	850	850	1	0	4	0	22
本原	907	1,121	2,028	456	11	0	600	900	1,000	0	0	3	0	17
三ツ山	127	183	310	73	3	1	110	190	190	0	0	1	0	6
中町	521	727	1,248	435	4	3	400	500	500	3	0	13	6	23
神ノ島	203	257	460	168	2	0	190	250	300	0	0	1	0	7
木鉢	458	574	1,032	308	4	1	330	450	650	0	0	2	0	5
飽の浦	701	923	1,624	455	1	0	200	350	400	0	0	1	0	13
本河内	67	83	150	60	1	1	35	70	75	0	0	0	0	1
八幡町	153	224	377	111	2	1	70	100	110	0	0	0	0	1
愛宕	255	505	760	222	1	1	140	280	280	0	0	0	0	7
大浦	332	431	763	335	1	1	200	350	350	2	0	9	17	10
大山	85	151	236	87	3	3	95	130	130	1	0	0	0	5
小ヶ倉	313	429	742	247	1	1	170	350	350	1	0	1	0	4
深堀	549	661	1,210	300	8	3	170	300	350	0	0	1	0	12
香焼	204	247	451	172	0	0	140	250	300	0	0	2	0	7
馬込	130	215	345	193	2	1	200	220	220	0	0	0	0	6
滑石	1,745	2,089	3,834	662	14	4	600	800	910	1	0	11	0	16
出津	271	342	613	201	1	0	250	300	300	0	0	3	0	6
黒崎	352	399	751	211	0	3	200	300	350	3	0	1	0	13
時津	469	543	1,012	287	4	0	230	270	400	1	0	0	0	11
長与	471	491	962	309	4	5	180	210	350	2	0	1	3	4
東長崎	645	820	1,465	391	7	3	350	550	650	0	0	1	0	14
植松	802	946	1,748	497	10	4	500	700	850	0	0	1	0	10
水主町	301	325	626	207	7	1	160	220	300	0	0	3	0	5
諫早	423	521	944	287	6	1	270	350	380	1	0	3	0	13
愛野	21	26	47	25	0	0	15	30	50	0	0	1	0	0
島原	56	77	133	65	1	0	40	60	110	0	0	1	0	1
湯江	77	269	346	64	3	2	50	80	80	0	0	0	0	6
相浦	473	589	1,062	476	2	1	380	500	600	0	0	0	0	13
三浦町	488	685	1,173	398	9	3	450	600	800	0	0	6	0	18
鹿子前	300	370	670	185	1	1	250	350	350	0	0	2	0	6
俵町	310	347	657	233	4	2	170	240	350	0	0	1	0	11
大野	463	539	1,002	298	3	2	150	250	250	0	0	1	0	9
浅子	360	389	749	241	2	5	180	250	280	1	0	1	0	10
黒島	198	225	423	187	1	2	170	280	300	0	0	1	0	7
太田尾	162	109	271	102	3	0	80	200	200	0	0	0	0	11
神崎	821	875	1,696	358	2	0	400	800	800	0	0	2	0	11
褥崎	392	369	761	204	6	0	300	500	500	1	0	0	0	6
大崎	275	348	623	150	5	0	350	400	450	0	0	4	0	5
天神	219	263	482	124	4	1	100	140	220	0	0	0	0	5
早岐	243	296	539	172	0	1	150	200	250	1	0	1	0	7
佐々	311	390	701	242	6	3	200	300	400	0	0	2	0	4
平戸	310	379	689	214	9	0	250	300	350	1	0	0	0	10
上神崎	224	233	457	175	2	1	230	250	350	0	0	0	0	8
宝亀	156	187	343	90	1	0	100	180	150	0	0	1	0	4
田平	402	435	837	211	1	0	350	400	400	1	0	1	0	10
紐差	480	605	1,085	285	7	2	300	500	600	3	0	6	0	19
西木場	265	311	576	196	2	0	190	300	300	0	0	1	0	10
平戸口	169	199	368	110	2	1	90	100	110	0	0	1	0	6
山田	113	168	281	71	0	0	100	200	230	0	0	0	0	4
青方	136	164	300	110	2	0	100	130	150	0	0	0	0	3
大曽	184	177	361	128	3	0	150	250	250	0	0	0	0	2
青砂ヶ浦	493	543	1,036	359	5	0	250	400	400	0	0	3	0	7
丸尾	197	199	396	160	8	0	200	250	250	1	0	3	0	7
仲知	78	90	168	114	1	0	100	120	120	0	0	2	0	6
曽根	233	242	475	190	4	1	130	200	200	0	0	1	0	4
鯛之浦	323	412	735	196	4	0	200	350	400	0	0	0	0	11
浜串	180	195	375	209	1	0	220	250	250	0	0	0	0	7
桐	313	312	625	200	2	0	210	300	300	1	0	1	0	3
真手ノ浦	206	158	364	135	1	0	120	200	180	1	0	0	0	3
土井ノ浦	110	143	253	113	0	0	100	150	130	0	0	0	0	3
福江	566	571	1,137	462	9	7	400	600	600	1	0	2	0	12
浜脇	35	39	74	27	0	0	35	50	60	0	0	0	0	1
浦頭	143	230	373	171	3	2	200	250	250	2	0	0	0	11
奈留	187	184	371	140	0	1	90	200	200	0	0	0	0	5
水ノ浦	241	268	509	172	3	0	230	300	450	0	0	0	0	10
三井楽	97	183	280	128	0	0	180	220	220	0	0	0	0	9
貝津	63	87	150	60	0	0	60	90	90	0	0	0	0	1
井持浦	64	54	118	44	1	0	40	70	75	0	0	0	0	2
総計	27,105	32,965	60,070	17,814	275	108	17,310	25,130	28,050	36	0	139	29	661

(1) 混宗婚とは、カトリック信者とカトリック以外のキリスト信者との結婚
(2) 異宗婚とは、カトリック信者と非キリスト者との結婚

愛の道を歩む励ましに―

コルベ神父のパネル展 開催

3月15日（金）～25日（月）、長崎市の聖コルベ記念館で、聖マキシミリアノ・マリア・コルベ神父のパネル展が開催された。これはコルベ神父の生誕125周年と、出身国ポーランドと日本の国交樹立100周年を記念して開かれたもので、ポーランド広報文化センター、駐日ポーランド共和国大使館、聖母の騎士会、コンベンツアル聖フランシスコ修道会聖母の騎士修道院が主催した。

展示されたのは、コルベ神父の生い立ちや宣教活動、アウシュビッツ強制収容所での身代わりの死が、写真や絵、言葉で描かれたパネル20点。制作者のヤン・ハイドゥガ氏（聖母の騎士会）は、関係者の多大な協力に深い感謝を表すとともに「聖マキシミリアノの生涯と事業が、日々真実の愛の道を歩むことへの励ましになることを願っています」としている。

会場を訪れた10代と20代の若者は、「犠牲をささげた多くの活動はコルベ神父様の信仰からのもの。歩みを見つめるよい機会となり、勉強になった」「古い写真を通して神父様の生涯や当時の様子を知ることができ、聖人という（遠い）存在ではなく私たちと同じ一人の人間として近く感じられた」と語っていた。

進学、入学の神学生・志願生

今春、進学した長崎教区の神学生および教区内の神学校・志願院に入学した者は左記の通り。

◆福岡カトリック神学院
哲学科1年
廣田　学（鹿子前）
池田 裕輝（植　松）
窄口　歩（城　山）

◆福岡コレジオ
大学1年
池田 健吾（植　松）
専門学校1年
田中 逸樹（深　堀）

◆長崎カトリック神学院
中学1年
大口 暖翔（浦　上）
高校1年
中村福太郎（三井楽）

◆聖コルベ志願院
高校1年
中野 凜星（東長崎）

◆お告げのマリア修道会
高校1年
田川ひかり（田　平）

人

「生かされて今日も祈る」

コンベンツアル聖フランシスコ修道会 小崎登明 修道士

毎日、インターネットのブログで『小崎登明（おざきとうめい）の91歳日記』を更新する。10年前、がんを患ったのがきっかけで開始。コルベ神父とゼノ修道士らが長崎に上陸した記念の日、4月24日から始め、今年で丸10年となった。

5年前、諫早市の養護老人ホーム聖フランシスコ園へ入所。生活を書きとめる日記の中には、人生がにじみ出ている。「老いを見つめ、終末をつづる。苦しみ、悩み、さびしさを人間はどう乗り越えるのか。気づいた言葉や絵を〝からしを効かせるように〟入れている」

寄せられる温かいコメントからは、人々の共感の思いがうかがえる。

本名、田川幸一。7歳で父を亡くし、17歳のとき母が原爆で行方不明になった。浦上出身だった母はカトリックの信仰を伝え、本河内のルルドに連れて行ったこともあった。「だから、原爆で孤児となり孤独になったとき、真っ先に聖母の騎士に飛び込んだ。受付にいたゼノさんが抱きしめ、ミロハナ神父様が迎え入れてくれた。今考えてみれば、母は私が生きる道筋を見つけておいてくれたんだと思う」

住吉のトンネル工場で働いていて助かった。母が気がかりで爆心地から約500メートルの自宅へ戻る際、3つの出来事があった。助けを求める男の子を助けず、負傷した女子学生の搬送を途中手伝ったが、飛行機の爆音で皆混乱し、逃げた。自分をいじめていた先輩が重傷で倒れていたが、ゆるせなくて助けなかった。「そうした心の傷を隠して聖母の騎士に入り、少年たちと一緒に過ごした」

その後、一人の父親の身代わりとなって餓死刑にあったコルベ神父のことを知り、心引かれた。修道士になったのち、ポーランドを10回訪問。原爆のとき「人を助けず、逃げ、ゆるせなかった」自分と、収容所で「人を愛し、ゆるしの心を持った」コルベ神父とがちょうど〝裏表〟になった。

「人間は罪なるものだが、コルベさんのような人もいる。そこに希望があり救いがある。孤独と出会い、愛といのち、これが人生」だと語る。

被爆後20年間は病に苦しむが、37歳で初誓願宣立。「ミロハナ院長や濱田増治院長、修道会は見守っていてくれた。修道士になって元気に働き、多くの出会いがあった」カトリックグラフや聖母の騎士誌、オラショの旅、二十六聖人無声映画の弁士、聖母の騎士園・小中学校校長、聖コルベ記念館館長、被爆の語り部など、幅広く熱心に務めた。

「孤独は生涯ある。けれど今、ブログのおかげでたくさんの出会いもある。これには何かの意味があるのだと感じるし、だからこそ励みにもなる。人間というものは神様から歩む道をいただいてやっぱり生きる意味もある。私は病気はあるが、毎日神様の恵みにあずかっている」と感謝する。

これまでで一番の印象を尋ねた。「原爆のことはやっぱり忘れきらんね。だけど一日一日、生かされて今日も祈る、だよ」。

みことばにふれて 159

山口 雅稔 神父

（コンベンツアル聖フランシスコ修道会、本河内教会）

「マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。『あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。』」（ルカ1・41―43）

マリアさまのご挨拶のお声は、どんなお声だったのでしょうか。エリサベトを聖霊で満たし、胎内にいる洗礼者ヨハネを喜びおどらせたマリアさまのお声……。それは、御父のみことばを受け入れた者のお声、イエスさまと結ばれた者のお声、聖霊に満たされた者のお声。そしてマリアさまのご挨拶のお声によって、エリサベトも聖霊に満たされ、イエスさまを「わたしの主」と信仰を宣言されました。「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです」（Ⅰコリント12・3）とパウロが言っているように、エリサベトは聖霊によってマリアさまの胎の子が、「わたしの主」であるという信仰を誰よりも早く宣言することができました。それはマリアさまを通して成されました。ですからマリアさまはイエスさまが主であることを告げ知らせた最初の福音宣教者と言えるでしょう。そしてそれは挨拶のお声によってでした。

福音を伝える時の挨拶の重要性、これをマリアさまは教えてくれています。イエスさまに結ばれ聖霊に満たされた者の喜びの挨拶です。聖ヨハネ・パウロ2世教皇が来日した時、この喜びの挨拶をされました。教皇さまはたくさんのメッセージを日本に残してくださいましたが、内容以上に教皇さまの温かいお声が印象的だったのではと思います。今年来崎予定の教皇フランシスコもわたしたちにどのような挨拶をしてくださるでしょうか。期待が高まります。

福音宣教は教会の本質ですが、まずはマリアさまのように挨拶から始まるのではないかと思います。イエスさまを信頼している人の心からの温かい挨拶そのものが福音であり、その声を耳にした開かれた心にさらに福音の内容が入るのでしょう。

ロザリオで喜びの神秘を黙想し、福音が伝わる恵みを三位一体の主と深く結ばれたマリアさまに願います。

新刊良書

★浦上四番崩れ
著者＝片岡弥吉
本書は、1980年に亡くなったキリシタン研究者、片岡弥吉氏の全集、第1集『日本キリシタン殉教史』と第2集『踏絵・かくれキリシタン』に続く第3集。「浦上四番崩れ――明治政府のキリシタン弾圧」「浦上教徒事件関係論考」など収録している。智書房、税別3200円。

★★★

★香部屋係のハンドブック――主よ、どこに過越の準備を〔2018年10月30日 改訂新版〕
著者＝白浜 満、齊藤賀壽子
香部屋係のためのハンドブック。福岡サン・スルピス大神学院典礼学教授の白浜 満神父（当時）が「カトリック新聞」に連載した記事と、長年、香部屋係として奉仕に務めた齊藤賀壽子さんの体験メモが一つになった本。教友社、税別1300円。

マリナ 平川セツ子修道女

（お告げのマリア修道会）

4月5日逝去。91歳。1927年生まれ。40年「小さき花の会」（現在の三井楽修道院）に入会。58年初誓願、67年終生誓願宣立。

聖母保育園、福江の聖マリア保育園、みみらくの里特別養護老人ホームなどの責任を持ち、幼児と高齢者のために尽力した。また修道院の責任者として長年共同体に尽くし、後輩の養成に心を遣った。

事業所を退いてからは、修道院で祈りと環境整備に努め、若い姉妹を支えた。約1カ月前に悪性リンパ腫で入院し、神様との深い交わりと感謝のうちに旅立った。

葬儀・告別式は7日、三井楽教会で行われた。

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場　所　カトリックセンター別館
連絡先　095・865・7829
時　間　月～金　10時～16時
＊休日（祝日・教区本部事務局休業日など）を除く。不在時は、留守番電話対応。

相談室室長　マリア 福田真理

不動産・会社・法人の登記や相続の手続
司法書士 山下 緑 事務所
代表者 ミカエル 山下 緑
所属 諫早教会　洗礼 井持浦教会　堅信 福江教会　結婚 浦上教会
〒854-0072 諫早市永昌町20-5　電話 0957-25-4886

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町 1385 番地 1　TEL (0959) 74－5551　FAX (0959) 74－5552
五島市奈留町浦 1899－1　TEL (0959) 64－3101　FAX (0959) 64－3102

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役 ミカエル 溝口 晃
〒858－0926 佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380